

市区町村名	群馬県 <small>ひがしあがつままち</small> 東吾妻町	担当部署	総務課
		電話番号	0279-68-2111

1 取組事例名

わが町が現実的に対応できる役場本庁舎の建設促進

2 取組期間

平成 28 年度～平成 30 年度（庁舎建設事業）

3 取組概要

建築後 60 年が経過し老朽化が進んだ役場本庁舎の建設は長年の懸案で、その建設の議論は繰り返されてきたが、移転を基本とした用地や財源の調整など慎重に検討を進めながら、庁舎建設基金の積立ても行った。

しかし、厳しい財政状況を考慮し、町有施設のあり方検討と役場本庁舎の建設促進を表裏一体の問題と捉え、将来負担に考慮した建設コストとするため既存資産を有効活用した現実的に町が対応できる最適な役場本庁舎の建設を決定した。

その結果、耐震性から災害発生時などに不安があった本庁舎について、既存施設を有効活用した庁舎を建設することができ、大幅に事業費を抑えるとともにまちづくりの拠点化が図れた。

4 背景・目的

役場本庁舎として有効活用した公共施設「岩櫃ふれあいの郷」は、東吾妻町が旧吾妻町から継承した公の施設で、町が過疎から脱却し、若者の定住による地域の活性化と活力に満ちた潤いのあるまちづくりを図るため建設した設置目的の違う 4 施設（日帰り温泉センターなど）の複合化施設として平成 6 年に着工し、2 期工事に分け平成 9 年 7 月に全館オープンとなった。

真田氏ゆかりの岩櫃城下の町をモチーフにお城を外観イメージとするなど、綿密な検討を行った町のシンボリックな施設であったが、その総工費は約 26 億円と大きく、建設財源として当時の過疎債を含む数種の地方債と農林水産省関連の補助事業を活用した当時の一大事業であった。

岩櫃ふれあいの郷の管理運営はオープン以来直営で、毎年度多額の支出を一般会計から行っていたが、その安価な使用料や維持管理に要する費用から考えて、全体収支が黒字になることは困難で、年数経過とともに設備面の老朽化もあり、さらなる収支の悪化が問題視されていた。

厳しい財政状況の中、町は町議会での議論などとともに、岩櫃ふれあいの郷の方向性を検討していたが、そのあり方と町が保有する既存資産を有効に活用し、将来負担に考慮した現実的な役場本庁舎の建設促進を表裏一体の問題と位置付け、この両面を一体的に解決することで今後、町が進める他の事業計画に財政面を含めて好影響を与えると判断し、平成 28 年 6 月に公共施設のあり方検討委員会（住民代表や外部有識者など委員 15 人）へ諮問した。

委員会での慎重な審議の結果、「4 施設の一部は存続するものの他は廃止とする。」ことが附帯意見とあわせて答申されたことから、町は岩櫃ふれあいの郷を役場本庁舎に転用改築する実施設計の着手と施設の

廃止準備に取りかかり、平成 29 年度より改修工事などに着手した。

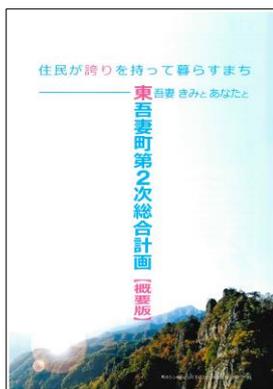
5 取組の具体的内容

群馬県の北西部に位置する東吾妻町は、253.91k m²の広大な町域で、そのうち森林面積は約 8 割を占め、歴史にその名を遺す岩櫃山や日本名水百選の箱島湧水、国指定名勝地の吾妻峡を有する吾妻川など豊かな自然環境に恵まれている。

近年は、NHK2016 大河ドラマ「真田丸」放映のクローズアップにより、戦国武将「真田幸村」も少年時代を過ごしたと言われる真田氏上州の拠点「岩櫃城跡」を残す岩櫃山周辺において、真田をキーワードとしたプロモーション事業を数多く展開しているが、その結果、岩櫃城は続日本 100 名城へ認定されるとともに、令和元年 6 月には、町民の長年の悲願であった岩櫃城跡の国指定史跡の指定が果たされた。



旧役場本庁舎の全景



新庁舎から見る町並み

この岩櫃城モチーフの既存施設を役場庁舎へ転用改築することは、極めてタイムリーに戦略的に工事着手することができたが、約 1 年に渡った改修工事は平成 30 年 12 月に完成し、引越し作業も極力経費節減に努め、職員総出で再利用できる什器類や文書類の搬出を年末年始休み返上でを行い、平成 31 年 1 月 4 日に新庁舎の移転・開庁となった。



新庁舎の完成鳥瞰図



開庁式典 平成 31 年 1 月 4 日



案内用デジタルサイネージ



新庁舎 1 階設置の太陽光パネル



災害対応も考えた新庁舎省エネ機器



総合窓口のコンシェルジュ(案内人)

6 特徴（独自性・新規性・工夫した点）

役場本庁舎の建設促進とリンクさせながら、町では平成 27 年度よりマイナンバー制度移行や ICT を活用したワンストップサービス提供も見据えて、お客さま（町民）の利便性と行政効率の向上を目指した総合窓口化と新たな組織体制案の調査検討を同時に進めてきた。

町長が庁内に専門的な分科会と部会を設置し、各課横断的な体制で職員を招集しながら約 4 年に渡って検討を続けた結果、新庁舎の移転・開庁にあわせ、行政効率を向上させた町民が利用しやすい新たな役場窓口体制を決定し、平成 31 年 4 月から組織機構改革を実施するとともに、縦割りを廃したワンストップサービス提供の「総合窓口」開設にいたった。

7 取組の効果・費用

○コンバージョンした新庁舎の機能（ハード面）

- ①耐震性及び安全性の確保 ②災害時対応設備の設置 ③セキュリティーの強化
- ④ユニバーサルデザインの導入 ⑤環境負荷の軽減

○取組の効果・成果

建設中も庁舎建設基金の積立てを積極的に行い、実質的な一般財源の負担を抑えた庁舎建設に努めた。

「庁舎建設基金残高の推移」平成 23 年度 1.4 億円 ⇒ 平成 28 年度 9.6 億円（8.2 億円増）

建設事業費を縮小できたことから、町債残高への影響も大幅に抑えることができた。

「将来負担比率の推移」平成 23 年度 119.2% ⇒ 平成 29 年度 55.2%（▲64.0%）

岩櫃ふれあいの郷の直営時の管理運営費と旧庁舎に係る庁舎管理費【平成 27 年度、フル営業最終年度】

「岩櫃ふれあいの郷」 歳入歳出差額 ▲119,682 千円（直営による人件費込み、赤字額）

「(旧)庁舎管理費」 歳出額 18,131 千円

新庁舎に係る庁舎管理費【令和元年度】

「(新)庁舎管理費」 歳出額 33,497 千円

取り組みによる効果額 上記の差額 104,316 千円（参考値）

○総事業費（人件費除く） 1,288,059 千円

内訳（財源など） 合併特例債 1,165,700 千円(70%交付税措置)

自己財源 122,359 千円(うち 107,534 千円は庁舎建設基金充当)

8 取組を進めていく中での課題・問題点（苦労した点）

総務課の新庁舎建設担当者から聞き取りによる（管財係）

- ・設計段階から各課職員の声を取り入れたが、意見が多くまとめるのが大変だった。
- ・町議会から意見等も聞いたが、とりまとめるのが大変だった。
- ・既存施設の利活用であったため、町民から意見等を聞く機会を設け難かった。
- ・日帰り温泉施設からの転用改築であったため、希望どおりの間取りにならないフロアがあった。
→建物の躯体上、撤去できない壁などあった。
- ・日帰り温泉施設が下足を脱ぐ設計だったため、階段やOA床など高さの調整が大変だった。

- ・なるべく建設コストを抑えるため、従来の什器類を多用したためその選定や配置に苦勞した。
- ・EPSや宿直など弱電設備等が集まる場所の種類が多かったため、配置配線に苦勞した。
- ・建築後、20年が経過した建物のため、雨水浸水箇所が今もあり、その対応に苦慮している。
- ・もともと複合型の施設であったので、構造上入り組んでおり、庁舎案内の対応に苦慮している。
- ・駐車場の高さが水平でないため、車庫が設置し難く、今後の課題として残っている。
- ・一部増築したため、出入口が出口専用となってしまう、使いづらくなってしまった。
- ・コンベンションホールを併設しており、庁舎内の大きな会議とイベントが重なると駐車場が不足する。

9 今後の予定・構想

「総合窓口」に配置するコンシェルジュ（案内人）を起点とした各課職員の人海戦術によるこの窓口業務改善を足掛かりに、ICTの活用やアウトソーシングの推進など今後も業務の再構築を検討し、住民サービスの向上を追求していく。

また、令和元年度中に防災・減災省エネルギー設備等導入事業（避難施設の整備）を活用して、太陽光発電等の自立分散型エネルギー設備を新庁舎へ導入し、平時のCO2削減を図る省エネ機器等も整備できた。

次なる課題は、旧庁舎跡地の利活用検討について、令和2年度予算に解体工事費を計上して準備を進めているが、庁内職員レベルの調査検討報告として令和元年度中にまとめ上げた「多くの世代の町民が利用しやすい交流施設（多世代交流エリアの提案）」の事業化に向けた具体的な検討を進めていく。

10 他団体へのアドバイス

当町の取組は、町有施設のあり方検討と役場本庁舎の建設促進を表裏一体の問題と捉え、全庁上げて各課横断的に職員が集まり、時間を掛けて丁寧に調査検討してきた結果でもある。

平成18年3月の町村合併以降も、小泉政権下の集中改革プランに続き、町独自の行財政改革推進プランに不断に取り組み続ける中で、健全財政に向けて実質公債費比率と将来負担比率の県下ワースト脱却のためには、既存施設を有効かつ大切に「コンバージョンによる役場庁舎の建設」がこれからのわが町にとって最善であると判断したからにほかならない。

11 取組について記載したホームページ

<https://www.town.higashiagatsuma.gunma.jp/> （新庁舎建設関係ページ）